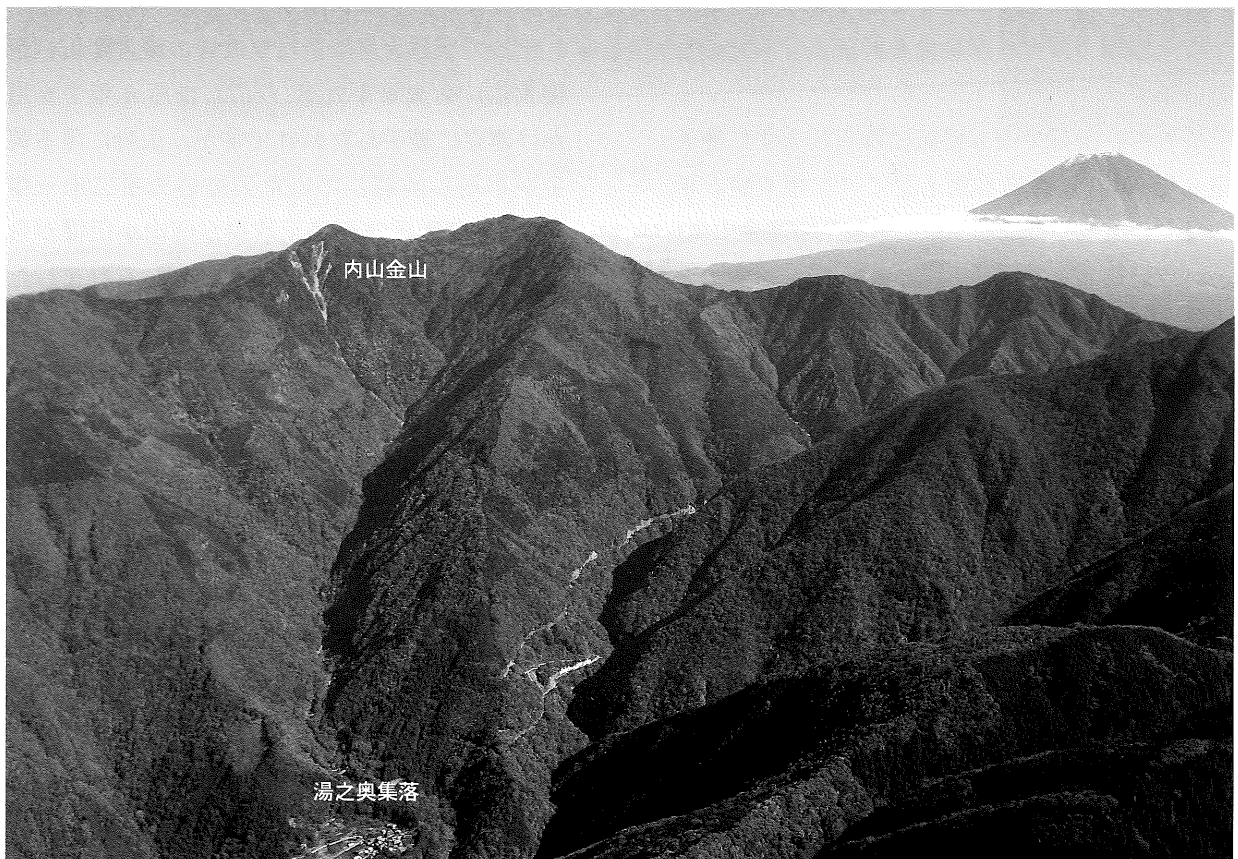


# 博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



## 内山金山測量調査の成果が着実に！

平成元年から3箇年で行われた総合学術調査は、中山金山を主な調査場所として実施されたもので、茅小屋・内山両金山は関連調査という形での調査でした。特に内山金山は非常に険しい場所にあります。当時間も限られた時間の中での確認調査でしたが、その成果は『湯之奥金山遺跡学術調査報告書』に掲載されています。

総合学術調査後、内山金山へのルートは、さらに崩落が進み、現場に到達することすら出来ない危険な場所となり、詳細な調査はその後一切出来ないままでした。そんな内山金山に、夏から現場測量調査隊が入山し、様々な発見がありました。その成果は着実に積み重ねられ、新情報が続々と博物館へ入ってきています。今号では、この内山金山遺跡の現場の一端をご報告いたします。2011年を迎えようというこの時期に、幸先良いご報告です。(関連記事6ページ)。

# 8世紀・初期(砂金)産金地の展望

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口 一夫

これまで「博物館だより」では、8世紀頃に初源をもつ砂金に代わる金鉱石からの産金(山金山)の初源(16世紀初頭)である甲斐金山遺跡(黒川金山や湯之奥中山金山)など中心に紹介してきましたが、今回は8世紀を中心に砂金採掘地の様相を知ることができる文字史料をもとに、初期(砂金)産金地を展望してみたいと思います。

最も古い記録では5世紀にみられます仁徳天皇5年(437)の異本風土記に「仁徳天皇5年5月より後連面黄金を生、為本朝三所之金山也」という記録がありますが、この本朝三ヶ所の金山は不明です。

また7世紀の「日本書紀」天武天皇三年(674)三月丙辰条には「対馬国司の守、忍海造大国言す。銀始めて当国に出づ。即ち貢上す」とあり、銀の産出もみられます。

同じく7世紀の「日本書紀」天武天皇十年(681)十月にみられる記述には、朝鮮半島諸国との交流の中で金の入手があったことを伝えています。それは「法隆寺(飛鳥寺)の造営にあたって、高句麗王が三百二十両を献じる」とあり、朝鮮半島産の金が列島にもたらされた様子が伺われます。まとまった金は朝鮮半島に委ねる状態にあったかも知れません。

7世紀末の「続日本紀」文武天皇二年(698)十二月によると「対馬嶋をして金鉱を治せしむ」とあり、また8世紀の「続日本紀」大宝元年(701)三月戊子条には「凡海宿禰鹿鎌(あらかま)を陸奥に遣わして冶金せしむ」とあります。(注・冶金とは一般的に鉱石から金属を採る技術、金属を精製加工する技術を指します)。当時はまだ砂金時代とみられますので、砂金の精錬と思われるのですが、徐々に産金活動が始動し始めていく姿が伺えます。

同じ「続日本紀」大宝元年(701)三月甲午条には、「対馬嶋、金を貢ず。元を建てて大宝元年と為す」とあり、さらに「続日本紀」大宝元年八月丁未条には、「是より先、大倭国忍海郡の人の三田首五瀬を対馬嶋に遣はして、黄金を冶金せしむ」とあります。

そして聖武天皇は奈良東大寺の蘆舎那仏(奈良大仏)を天平十九年(747)から4年7ヶ月かけ建立に着手したわけですが、仏身に塗る黄金が不足し困窮していた矢先の天平二十一年(749)、陸奥国守百済王敬福が部内小田郡から産出された黄金九百両を天皇に献じられましたが、この小田郡黄金迫がわが国最初の産金地となります。突然、産金があったわけではなく、それ以前からの産金活動の黎明期の上に涌谷が大きく位置づけられたものと言えます。

「続日本紀」(天平二十一年二月二十二日)の条には「陸奥国より始めて黄金を貢す。ここにおいて幣を奉りて畿内七道の諸社に告ぐ」とあり、聖武天皇は翌四月二日には大赦を行い、十四日には年号を「天平感宝」元年と改めました。

金を産した小田郡の調庸が免ぜられたり、黄金を献じた陸奥国守百済王敬福は、従五位上から従三位に飛躍的に昇進します。

この吉報を越中国守館にあって伝え聞いた大伴家持は「陸奥国より金を出せる詔書を賀ぐ歌」一首ならびに反歌三首を万葉集巻十八に残しています。

「天皇(すめろぎ)の御代栄えむと東なるみちのく山に金(くがね)花咲く」(大伴家持)

この産金地は砂金採掘で宮城県遠田郡涌谷町黄金迫の黄金山神社付近と同定されます。この神社は延喜式神名帖に「小田郡一座黄金山神社」

として記載がある式内社ですが、式内社とは地域の氏神さんから官営の神社への昇格を意味します。

明治22年発見の丸瓦外面に「天平」の二文字が篋書されている文字瓦が発見され、昭和19年7月の大雨では、神社の下を流れる小川からは、「天口・・・」の篋書がある瓦製の宝珠の破片が発見され、精査すると口の一部分に平と読み取れる痕跡があることから、この時代の文字史料や考古資料が涌谷における産金の事実を今に伝えています。涌谷が砂金産金地の初源といわれる史資料にもとづく根拠です。

また天平勝宝二年三月（750）には、駿河国からも黄金が貢献された記録があります。「多胡浦浜黄金を獲りこれを献ず。鍊金一分、沙金一分、梅ヶ島金山黄金大いに出す」という記録です。

産金地は田子浦（上流域には安倍金山など沢山の産金地がみられます）。孝謙天皇は同年十二月に駿河国守檜原東人を勳臣の姓（いそしのおむ）と従五位上の位階を授けています。

さらに9世紀に入りますが、承和二年二月二十三日（835）の「続日本後記」には、下野国（栃木県那須郡馬頭町建武）にある建武山（たけふやま）神社が砂金の採れる山に鎮座することで叙位され、後に式内社に列せられています。

また承和3年正月25日（836）の「続日本後記」には、陸奥国白河郡の八溝黄金神社が、国司の祈祷に応じて、通常の二倍の砂金を採り、遣唐使の資とすることができたので、封戸二烟をあて、この八溝嶺神社（やみぞのみね）も後に式内社となります。

これらの神社は金が採れなくなると再び地域の氏神さんになって鎮座していますが、当時の産金地を模索する上で式内社の所在分布からも産金地にたどり着くヒントがありそうです。

また10世紀（900年代）前半の「延喜式主計式」に、下野国の交易雑物として、砂金150両と鍊金84両を計上した記録があり、9世紀の承



和2年（835）以降、この国でも産金量が増えていきます。

その他、産金地は明らかにできませんが、産金が前提にある文字史料はいくつかみることができます。「小右記」長元5年（1032）8月25日条には、天曆8年（954）から5年間、陸奥守の任にあった藤原倫寧は、年料金高として3,000両を上納していること、長和3年（1014）2月7日、鎮守府將軍平維良が、奥州の砂金等の財貨を政府に献上して官位を得ていること、長和5年（1016）7月10日「御堂関白記」に陸奥国からの年物に砂金100両が含まれていること、天治元年（1124）中尊寺金色堂が阿弥陀堂として藤原清衡によって建立（4代をまつる廟堂）されたが、屋根板を除く全てが金箔で飾られ、清衡の金箔押木棺からは32gの金塊が副葬されていたこと、中尊寺文書によれば、中尊寺経である紺紙金銀字交書一切経を宋から10万5,000両で購入していますが、このように8世紀前後から12世紀の産金を知る史料の存在は、金が日常的に産出していたことを伝えています。これからは産金地（現場）を探る仕事が残されています。

# 活動報告

## 平成22年度 公開講座開講

10月～

今年度公開講座は「8～16世紀 空白の産金史の実像～黄金の国ジパングの深層を探る④」というテーマのもと、全5回シリーズで10月から開講しております。考古学や文献史学からはすでに尽くした感がある「産金史空白期の謎解き」を、口承文学や民俗学などあらゆる見地から再検討して一つ一つパズルのようにはめ込んでいく作業を目的としたもので、初回はこのテーマの概論として谷口館長が講演いたしました。その後引き続き11月13日(土)、國學院大学文学部兼任講師の米屋陽一先生が「口承文学から見た黄金文化～炭焼き長者伝説の世界観～」についてお話されました。

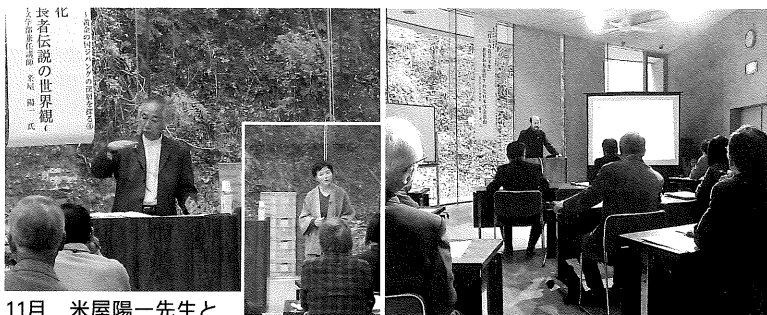
口承文学とはその語り継がれてきた話に込められた心意をくみ取る学問だということを前提に、いくつかの「金」が関わる物語や昔話、また全国各地に存在する「炭焼き長者伝説」を取り上げ、そこに込められている意味の見つけ方、方法論を解説されました。講義後は、ゲストとしてお招きしていた山梨むかしがたりの会代表の藤巻愛子さんに民話の語りをしていただき、「炭焼き長者伝説」と、「黒川金山おいらん淵伝説」を語っていただきました。聴講者は昔訛りの独特の甲州弁で語られるそ

の民話を興味深げに聞き入っていました。

年内最後の講義は国立科学博物館の鈴木一義先生で「世界から注目された黄金の国ジパング」について講義して頂きました。

世界遺産になった石見銀山や、そのほかの金銀山などを比較しながら、また石見銀山に限らず、他の金銀山に残されている鉱山絵巻を見てみると、鉱山作業が描かれている中に、相撲を楽しむ人々や、お風呂に入りスイカを食べて夕涼みしている状況も描かれており、今で言うところの福利厚生。日本での鉱山作業は科学の発達を利用し、またその知識が引き継がれてきながら、さらに平和に技術が転用されていることが特徴。逆に西欧に残されている絵図を見てみると、労働者、商人、搾取者と見事なヒエラルキーが表れている。そうした中でいえることは、働く人、知識を持っている人、技術を開発する人、つまり「人全体」を大事にしているということが、日本と西欧での大きな違いであり、またそれが日本の特徴であることを、講義全体を通じてお話されました。

この公開講座は下記の日程で1月、2月と、公開されます。



11月 米屋陽一先生と昔話を語る藤巻愛子さん

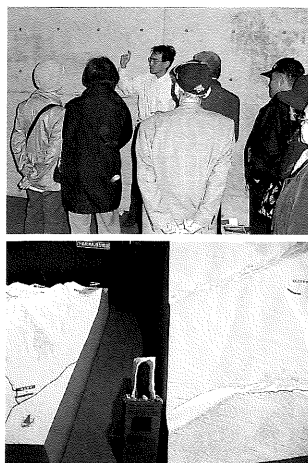
12月 鈴木一義先生

### ～今後の公開講座の日程～

- 1月 第69回 平成23年1月22日(土)  
「荘厳」飾 錬金と金箔の技術を知る  
(実習を含む)  
柳本伊左雄氏 (身延山大学教授)
- 2月 第70回 平成23年2月19日(土)  
～日本の“老脈型”金鉱床と  
砂金採取の時代～  
広瀬義朗氏 (砂金・砂白金学会)

## 中山金山坑道の再現模型設置

石見銀山の坑道を探査して世界遺産登録に一役かった松江高専。久間英樹教授が、中山金山の坑道をロボット形状測量していただいた際のデータを使って、坑道復元モデルを作成・設置してくださいました。現場に登らずとも坑道の雰囲気を感じられるというこの模型。中に入ることもできますので、ご来館の際には是非この坑道体験もしてみてください。



さて、そんな中、秋は遠足の季節ですが、玉諸小学校、湯田小学校、石和西小学校、泉小学校、大河内小学校、甲府東中学など、今年も多くの中小学校でご来館いただき、子供たちが身延を訪れてくれました。皆、館内での学習と砂金採り体験を楽しんでいき、体験室ではたくさん採れた子、少し控えめだった子など様々でしたが、結果はともかくとして大いに体験時間を楽しんでくれました。

そうした子供たちも、人間が入れるような坑道模型に潜ってみたりして、昔の人の気分を味わいながら楽しんでいます。

## 津具金山遺跡見学会開催

10月23日(土)

津具金山は愛知県北設楽に位置し、山梨からはかなり離れていますが、湯之奥金山と同時代の戦国期金山です。なおかつ武田最大版図の中に組み込まれていた金山の一つです。金鉱石の在り方も類例を見ないもので、そのために発見も遅れ、大々的に開発されたのは近代に入ってからという珍しい歴史を持つ金山です。今年度最初の見学会はこの津具金山です。

今回はバス移動の遺跡見学会でしたが、長距離移動のため早朝6時の出発。出発から4時間後の午前10時過ぎに最初の見学地である鳳来寺自然科学博物館に到着。館内でスタッフ女性に招かれ見学へ。ここは、鳳来寺の自然を紹介するとともに、津具金山の開発を語るに当たって欠かせない人物である藤城豊氏の資料や寄贈鉱石なども展示しており、現地を見学する前の予備知識を皆さんに吸収していただきました。40分程の短い見学時間ではありましたが、自然と歴史を堪能しながら館を後にしました。

鳳来寺自然科学博物館に近い食堂で早めの昼食をとり、次の目的地の津具金山遺跡の現場へ。ここでは設楽町の文化財にお詳しい方々が5名、我々一行をご招待くださいました。そして津具金山遺構のひとつ、「信玄坑」の歴史概略をご説明いただき、合わせて、金山だけでなく津具周辺の草木などについてもご説明くださいました。「信玄坑」

は普段は役場が管理している鍵付きの柵がされていますが、特別に見学会に際してご担当の方が開けてくださり、柵がない状態で坑道を見学しました。(写真左) 丁寧にご案内いただき後ろ髪を引かれる思いで、最後の見学地である三信鉱工株式会社へ。

こちらでも同社社長の三崎純市さんより丁寧な対応をいただきました。(写真右) まずは社屋2階でP.P資料による「マイカ」や同社が採掘しているセリサイトについて、映像を交えてわかりやすく解説していただきました。その後、稼業している坑道を見学させていただきました。長靴とヘルメット着用で、三崎社長のご案内で、300m以上続く坑道の切端(羽)まで進み、そこは安山岩と凝灰岩の境目にもなっていて非常に珍しいものを見ることが出来ました。見学を終えて再び会社へ戻りましたが、全員におみやげとお茶までご用意くださり、お忙しい中おもてなしいただきました。一日を通して、津具金山の見識を深め全員大満足の見学となりました。



## 中山金山遺跡(採鉱域)見学会

11月20日(土)

今年度第2回目の遺跡見学会が気持ちの良い秋晴れの中で開催されました。見学地は湯之奥中山金山の採鉱域の坑道跡。いつものコースより険しい道なのですが、今回も昭和山岳会の皆様にご同行いただき、15名が参加しました。この日は晴天に恵まれ毛無山地蔵峠から望む富士山も非常に美しく見え、また毛無山登山のご家族と行き帰り何組ともすれ違いました。

いつもの見学場所の精錬場や女郎屋敷、大名屋敷・七人塚、水飲み場を説明解説のみで通過し、歩みを坑道へと進めたところで、昼食時間。



地蔵峠で富士山を眺めながらの美味しい昼食をいただき、元気をつけたところで、坑道までもう一がんばり。ここからは相当に急峻な坂道ですが無事に到着しました。



中山金山には16本の坑道が確認されていますが、見学地として向かったこのエリアには4つの坑道が存在します。1時間ほどそれぞれ形状の異なる坑道を確認したところでタイムリミット。時間に余裕があれば通過してきた精錬場の見学も行いたところでしたが、約2時間ほどかけて午後4時前に下山。この季節なので博物館に着いた頃にはあたりは真っ暗でしたが、無事に終えることができました。

今回の見学会は道のりも大変でしたが、その分、内容もご満足いただけるものとなり、大成功となりました。今年計画した2つの見学会が終わりました。

次年度も皆様に納得いただけるような内容の濃い見学会を展開していきたいと計画していますので、楽しみにしててください。

## 湯之奥 内山金山測量調査近況報告

標高1,964mの毛無山に連なる山中に湯之奥3金山が存在し、標高1,600m付近に中山金山が、800m付近に茅小屋金山、1,400m付近に内山金山が広がっています。今年はこの内山金山に測量調査班が入山し調査をしています。

3金山を包む山々は通称・蝙蝠山と呼ばれ親しまれています。『館だより』(23号、33号、49号)でも紹介されている山で、身延町下山杉山周辺や小田船原周辺からこの景観は良く見えます。そしてこの蝙蝠山の中央を臨むと、大きなガレ場があります。俗に“内山の大ガレ”と呼ばれ、白い岩肌が遠くからでも見えます。この大ガレ右側の尾根に内山金山は位置します。

入ノ沢の茅小屋金山から、さらに道なき道やガレ場を2時間余り登ると、これまで到達すら難しかった内山金山へ達します。調査班が遺跡までのルートを開拓し、登頂が可能になりました。しかし決して容易な場所ではありません。

そのような中でも調査は進み、鉱山臼、石塔、テラスと新発見が続々とあります。中でも大発見は、坑道を含む採鉱域を挙げることができます。今回は内山までの道のりやテラス、坑道の様子を写真でお伝えいたします。なお、次号では内山金山特集を予定しております。



茅小屋金山遺跡から川を渡りさらに上方へ入り進むと…



写真では分かりにくいですが、直登。大ガレへと続きます。



もちろん大ガレも直登。向かいの七面山のガレ場がよく見える。



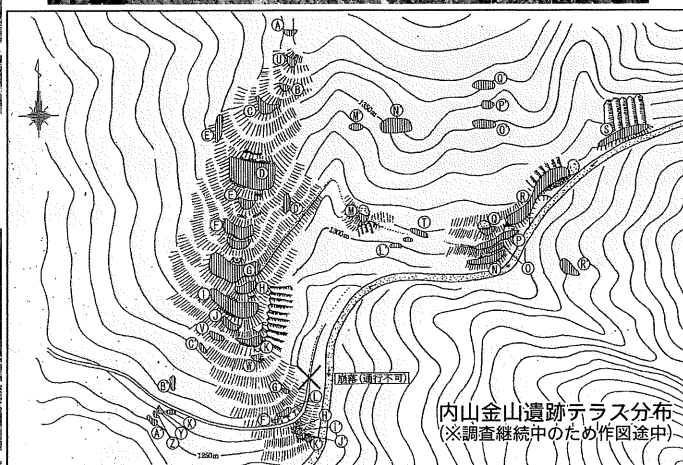
内山金山遺跡はこの辺



通称・寺屋敷。分布図ではDテラス。広い石積み広がる。



発見の坑道1つ目。中には……熊ちゃんの寝床に!?



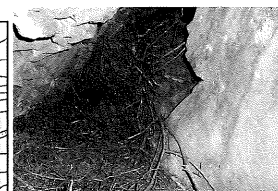
内山金山遺跡テラス分布 (※調査継続中のため作図途中)



散乱する石臼群。確認分だけでもその数80点以上



新たに発見した石塔。1666年当時の逆修塔らしい。



2つめの発見は全長約14m! 内部は2段に分かれている箇所も。

## 湯之奥・内山金山遺跡測量調査報告会のお知らせ

昨年度の茅小屋金山遺跡測量調査から引き続き、今年度行われた内山金山測量調査。これは湯之奥金山史においてはもちろん、全国的な金山史においても大きな成果となります。平成元年の測量調査時には分からなかったこと、発見されていなかった遺構など、茅小屋金山測量調査から数えて2年間に及ぶ検証成果を皆さまにご報告いたします。どなたで様でも、ご興味のある方はお申し込みのうえ、お気軽にご参加ください。



**期 日：平成23年2月27日(日) 午後1時～午後5時**

**場 所：湯之奥金山博物館映像シアター**

[定員：85名※定員になり次第締切ります]

**参加費：無料**

**プログラム：①湯之奥3金山の歴史的概要について**

(予定)

(湯之奥金山博物館館長 谷口一夫)

②内山金山遺跡調査報告 (テクノプランニング 森谷 忠氏)

③基調講演他

④パネルディスカッション

「湯之奥金山遺跡の歴史的役割と今後の展望について」

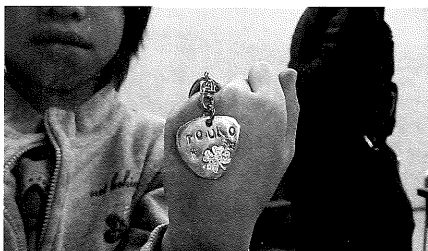
※プログラム内容は変更になることもございますが、予めご承知置きください。



## ..... キラキラ!シルバーアクセサリー作り体験教室 第2弾 .....

■平成23年2月13日(日) ①午前の部：10時～12時 ②午後の部：14時～16時

シルバー地金を伸ばして、好きな形に成形したり刻印を打刻して、素敵な手作りのシルバーアクセサリーを作ってみませんか? バレンタインデーを前に、素敵なプレゼントになるかも? 体験指導には地元・峡南高校の先生と学生が全面的にバックアップ。優しく楽しく指導してまいります。12月に第1回が行われこちらも大好評でした。初めての方も、2回目挑戦という方も、参加ご希望の方は博物館までご連絡ください。



12月の体験教室の様子

■定 員：午前・午後の部とも10名(先着順、定員になり次第)

■締め切り：平成23年2月12日(土)まで。

■参加費：1,000円/1人(材料費として)

■指導講師：五十嵐智則先生・後さおり先生(峡南高校教諭)& 峡南高校電子機械科2, 3年生の生徒の皆さん

■募集対象：一般(※お申込時には、体験される方全員のお名前、代表者様のご住所、電話番号をお伝えください。)

■両事業とも お申し込み・お問い合わせ…湯之奥金山博物館

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003まで

### ～～持ち物～～

筆記用具類(はさみ、カッター、カッターマット、鉛筆 etc.)

いらぬ布切れ(シルバー磨き上げ用に使用します。)

※シルバープレートに施すデザインを考えておくことが上手く出来上がるポイントです♪。

## 常設展示室に資料追加。甲武信の金鉱石をご寄贈いただきました

このたび、長野県川上村に在住の由井満様より、由井様の地元の金鉱山「甲武信金山」の金鉱石をご寄贈いただき、このほど、常設展示室鉱石コーナーに追加展示いたしました。

由井様は、過去当館においでくださったことがあり、その後「確か甲武信金山のきれいな鉱石があったはずだから、展示公開してもらって、広く甲武信のことを知ってもらえるきっかけになれば」ということをご寄贈くださったものです。由井様のご厚意に応えるべく、今後、未長く展示公開してまいります。

常設展示室の同コーナーには、合わせて内山金山の湧り滓、人工水晶、また展示パネルに追加説明など加え、ご覧頂く皆さまにより分かりやすいようにマイナーチェンジを施しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

# 館からお知らせ

## ～★ 新年は1月2日(日)から通常開館いたしております ★～

4月まで冬時間 午前9時～午後5時まで (受付は午後4時30分まで)

なお、新年は1月2日～4日(火)まで、受付にてチケットをご購入くださった皆様にはもちろん、豪華景品があたるかもしれない“新年くじ引き”もお楽しみいただけます。また、通常よりもお買い得価格でご提供する博物館特製福袋など、新年ならではの商品もいろいろあります。ウサギ年も金山博物館でお楽しみください。多くの皆様のご来館をお待ちしております。(1月5日(火)は休館日とさせていただきます。)

※年末年始は次のとおり、12月28日(火)～翌年1月1日(土)までの5日間が休館日となります。開館時間や開館日をお間違えにならないよう、お出かけください。

## 中国・四川省より訪日団身延町へ！館内も満喫



去る11月23日。中国四川省より温泉経営者らによる短期視察研修団が来県し、22日から県内の温泉施設・周辺施設の視察に訪れ、下部温泉のある身延町へもこの日訪れました。

一行は谷口館長の案内で館内を見学、さらに砂金採り体験も楽しみました。体験室では童心に返ったように無邪気に楽しんでくださる様子が印象的でした。限られた短い滞在時間の中で身延町を満喫してくださったようです。今後の同省での観光発展に参考になれば幸いです。

## 博物館日誌 (平成22年9月～12月)

12月	11月	10月	9月
12月9日(日)	11月27日(月)	10月1日(土)	9月9日(木)
8日(土)	26日(日)	29日(日)	8日(水)
6日(木)	25日(土)	28日(土)	7日(火)
4日(火)	24日(金)	25日(金)	6日(月)
30日(土)	23日(木)	22日(木)	5日(日)
29日(金)	22日(水)	21日(水)	4日(土)
28日(木)	21日(火)	20日(火)	3日(金)
27日(水)	20日(月)	19日(月)	2日(木)
26日(火)	18日(土)	16日(土)	1日(水)
25日(月)	17日(金)	15日(金)	
23日(土)	16日(木)	14日(木)	
21日(木)	15日(水)	13日(水)	
2019年18日(土)	14日(火)	12日(火)	
17日(木)	13日(月)	11日(月)	
16日(日)	12日(日)	10日(日)	
15日(土)	11日(土)	9日(土)	
14日(金)	10日(金)	8日(金)	
13日(木)	9日(木)	7日(木)	
12日(水)	8日(水)	6日(水)	
11日(火)	7日(火)	5日(火)	
10日(月)	6日(月)	4日(月)	
9日(日)	5日(日)	3日(日)	
8日(土)	4日(土)	2日(土)	
7日(金)	3日(金)	1日(金)	
6日(木)	2日(木)		
5日(水)	1日(水)		
4日(火)			
3日(月)			
2日(日)			
1日(土)			

12月 9日(土) 内山金山測量調査打合せ・下部温泉魅力づくり協議  
 8日(金) 身延町観光キャンペーン(於名古屋丸栄デパート)  
 7日(木) 古文書教室  
 6日(水) 北文書教室  
 5日(火) 古文書教室  
 4日(月) ことき勸学院座学  
 3日(日) 休館日  
 2日(土) 休館日  
 1日(金) 休館日  
 11月 27日(月) 津具金山遺跡見学会  
 26日(日) 大内町小学校4年遠足  
 25日(土) 大内町小学校5年遠足  
 24日(金) 湯田小学校4年遠足  
 23日(木) 湯田小学校5年遠足  
 22日(水) 足湯打合せ  
 21日(火) 休館日  
 20日(月) 休館日  
 19日(日) 休館日  
 18日(土) 休館日  
 17日(金) 休館日  
 16日(木) 休館日  
 15日(水) 休館日  
 14日(火) 休館日  
 13日(月) 休館日  
 12日(日) 休館日  
 11日(土) 休館日  
 10日(金) 休館日  
 9日(木) 休館日  
 8日(水) 休館日  
 7日(火) 休館日  
 6日(月) 休館日  
 5日(日) 休館日  
 4日(土) 休館日  
 3日(金) 休館日  
 2日(木) 休館日  
 1日(水) 休館日  
 10月 1日(土) 休館日  
 9月 9日(木) 休館日

## 編集後記

皆様のお手元にこの『館だより55号』が届く頃、2010年から2011年の過渡期。学校は冬休みに入り、家では大掃除やらお餅つき、職場では仕事納めを目前に年末年始の慌しさで皆大忙しといったところですね。そんなせわしない年末で

すが、新年を迎える準備が出来たら、もしくは作業の合間の休憩に『館だより55号』を眺めてくださると嬉しいです。新年を迎えた頃だといろんな新年号がたくさんで目を通してもらえないかも？と思い珍しく年内刊行いたしましたので。来る2011年も旧年と同様、どうぞよろしくお願いたします。

## 博物館だより 第55号 平成22年12月24日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 電話 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003  
 博物館HPアドレス [http://www.town.minobu.lg.jp/local\\_minobu/kinzan/index.html](http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html) 博物館Eメールアドレス [yunoking@town.minobu.lg.jp](mailto:yunoking@town.minobu.lg.jp)